

しんぶん赤旗

検索

購読（または見本紙）のお申し込み
お近くの日本共産党事務所または、
党中央委員会へ。☎03 (3403) 6111
メールアドレス info@jcp.or.jp



しんぶん赤旗

2018年 2・3月 特別号外

記事案内
紙面にみる「赤旗」の90年②③
「赤旗」日曜版の読みどころ④

発行所 日本共産党中央委員会
東京都渋谷区千駄ヶ谷4の26の7
〒151-8586 ☎03(3403)6111

「赤旗」公式 facebook アカウント 赤旗PR、twitter アカウント @akahata_PR ■ファクス 中央委員会 03 (5474) 8358 赤旗編集局 03 (3350) 1904 ■http://www.jcp.or.jp/

「しんぶん赤旗」は創刊90周年を迎えました

「しんぶん赤旗」は1928年2月1日の創刊いらい、日本共産党の機関紙として社会変革の事業に貢献するとともに、真実を求める国民の共同の新聞として、日本社会の中でゆるぎない地位を築いてきました。創刊90周年にあたって、各界の識者みなさんからは「嵐と怒濤の年月の90年です。『赤旗』も、傷つき、血を流して闘い、またあるべき姿を模索しての日々だったと思います」「それを生き抜いて今、二十一世紀になお存在感を増しているのは立派なことだと敬意を表します」（作家の赤川次郎さん）などのメッセージを寄せていただきました。各界からのメッセージを紹介するとともに、紙面を振り返りながら「赤旗」90年の歴史と今を考えます。



真実を伝える国民共同の新聞です

「しんぶん赤旗」は、日本の問題でも世界の問題でも、世の中の真実に迫ると日々、報道を続けています。

1月30日付では、1994年の北朝鮮核危機を米国防長官として経験し、近年は「核兵器のない世界」を訴え続けているウィリアム・ペリー氏のインタビューを掲載。われわれは戦争に突入することはないと、米国防長官も、韓国も、そして北朝鮮も「今日、軍事的手段を使わずに大い、外交的手段を使うこと」の論拠は今においてはより強力です。北朝鮮問題を平和的、外交的に解決する必要性を力説しています。

安倍内閣の暴走を告発する報道も充実。松本文明内閣府副大臣がその計画を全面撤回させるなど、働く人たちに寄り添ったスクープも報じています。

「しんぶん赤旗」は平和、民主主義、生活向上を願う人びとの絆となる国民共同の新聞です。全国各地の草の根のたたいを丁寧につなぐとともに、幅広い人々が紙面に登場、交流しています。市民と野党の共同の前進になくはならない新聞です。

また、「しんぶん赤旗」日刊紙は、一般紙に先駆けて最終面にもってきたテレビ・ラジオ欄、政党機関紙で唯一プロ棋戦を主催している囲碁・将棋欄をはじめ、学術・文化面、スポーツ面、くらし面など、多様な関心に応えた魅力ある紙面となっています。



ノベル物理学賞受賞者
京都大学名誉教授
益川 敏英さん

1面から最後まで全部読む

大学の研究室にほかの新聞と一緒に「赤旗」が置いてあった。もう50年以上前。それから1969年に宅配になってからも、ずっと読んでいますよ。1面トップから最後まで全部読む。

ほかにも読むけど、「赤旗」は記事がわかりやすいね。政治のことがよくわかる。要点が鮮明です。最近では科学の記事も詳しくなっていて、一般紙よりいいね。

よく読めば一般の新聞にも情報としては同じことが書いてあるから、「赤旗」が特別魅力的だとは思わないけど、それは「フアクト」のこと。憲法9条を守れという「憲法を守る」という勢力がある」という書き方を。立場を鮮明にしているのは「赤旗」だけだ。

戦前は、政治的な話をすれば特高に引張られていた。そういう時代から手渡して配られた歴史がある。それはすごいことだ。それが今は堂々と宅配で読める。それだけ社会が進んだわけね。

問題を深く掘り下げて解明した「赤旗」らしい記事がもっと人々の、とくに若い人たちの目に触れるようになってほしいね。



同志社大学大学院教授
岡野 八代さん

報道の視点明確 90年の軌跡

「しんぶん赤旗」創刊90周年おめでとうございます。

政治の機関紙が、社会と政治、世界を伝えるメディアとして、これほど貴重になるとは、皮肉を言うようだが、それは、現在の日本社会がいかに危機にあるかを示しています。政党も、そして大手メディアも、戦後これほど、私たちの不信感を高めたことがあったでしょうか。

私たちは、誰しも政治的な存在です。なにを見ても、それは、私の視点から見たもので、それは、私の必要なのは、その視点に自覚的であること、政府の発表をただ伝えるような報道や、無難な両論併記は、中立であるどころか、自らの視点に無自覚な偏った報道に他なりません。

民主主義に不可欠の、報道の自由の実践と、報道の視点を明らかにする政治性こそが、赤旗90年の軌跡だと思います。今後はさらに、女性視点の政治報道も期待しています。女性が発言する共産党、それも現在の日本政治に対する勇ましい態度表明です。



作家 澤地 久枝さん

メディア無視の事実を丁寧に

瀬戸内寂聴さんは、95歳になられた。最近作「いのち」の高い文学性、みずみずしい感性に打たれている。

本紙が創刊から満90年になるという。90年は長い。しかも昭和時代には発行を禁止された日々がある。復刊されたのは、日米安保条約締結の1952年メーデー。インクが手につきそうな「赤旗」の記憶があややかにある。

寂聴さんは一般紙4紙と「赤旗」を毎日読んでいらっしゃる。「赤旗」よりも長い人生を、それも有為な人生を生きてこられたのだから「寂聴さんと赤旗」を読みたいと思ってる。

「赤旗」は他のメディアが無視する事実を丁寧に追いついて、沖縄選挙力がある。

毎月3日午後1時、私たちは国会正門前で「アベ政治を許さない」（俳人金子兜太氏の強烈な文字）をかかげている。「赤旗」の記者がいつもあられ、翌日に写真入りの記事が出るのだ。



元外務省国際情報局長 孫崎 享さん

真実に迫る紙面 使命大きい

「赤旗」はいま、日本共産党の機関紙という意味を超えた重要性を持っている。民主主義の根本は報道の自由だが、「国境なき記者団」の評価で日本の報道の自由度は世界で7番目だ。村度の風潮が社会を覆い、おのおのの組織が法的、道徳的に許されないことをやっている。

報道でも、真実を追求すべきメディアが、政権にどうも歓迎されるかを基本として、大手メディアが死に体にある中、真実に迫ろうとする紙面で、多くの人が接することができている。「赤旗」しか「赤旗」と協力すれば、自分の発言の機会を狭めると考え、協力を避けた時期もあった。しかし、「赤旗」と共産党が、安倍政権が行う「改革」を止める取り組みの中核にある。その中で、「赤旗」と協力することが望ましいと考え、発言する機会が与えられれば、受ける方向に私自身も変わっていった。

90年の歴史。戦前の大変な厳しい時期をのり越え「買性を持つことは想像を超える。その力強さは、今日の紙面に生きていると思う。」



ジャーナリスト 青木 理さん

目離せない権力のチェック役

政機関紙というメディアの性質上、一般ジャーナリズムとは立ち位置が違うという前提はありますが、取材力、調査力という意味では、数あるメディアのなかでも「赤旗」はトップクラスにあると思います。

最近でも企業名を明らかにしたフランク企業の不正追及、自衛隊の実態など、いくつもの特ダネを報じています。かつて通信社に身を置き、今はフリージャーナリストの私からしても目が離せない貴重で大切なメディアです。

いま、新聞、雑誌などの紙媒体は生き残りに必死です。残念なのは「赤旗」に特ダネが載っても、一般の人になかなか広がらない。それをどう工夫していくか。インターネットやSNSをどう活用し、若い人への影響力を増していくか。共通する課題だと思えます。

国会では自民1強という異常な状況下、憲法改定議論が進んでいます。メディアの権力チェック機能が問われるなか、多くのメディアは非常に頼りがない。「赤旗」には、政機関紙の立場ではあっても、権力チェックの役割を鋭く果たしつつあります。期待しています。

1928—2018

歴史が決着をつけた 三つのたたかいと「赤旗」

創刊90年を迎えた「しんぶん赤旗」——そこに貫かれているのは、不屈のジャーナリズム精神です。90年の歩みを、紙面でたどってみました。

戦前のたたかい

日本共産党の創立は「赤旗」創刊の6年前、1922年7月15日、昨年(2017)7月15日、27回党大会の決議は「日本共産党の95年は、日本国民の利益を擁護し、平和と民主主義社会進歩をめざして、その障害となるものを対しては、相手が多量に弾圧をうけた」として、戦前の天皇制の専制政治、暗黒政治とのたたかい②戦後の旧連連などによる覇権主義とのたたかい③「日本共産党を除く」というオール与党体制とのたたかい——をあげました。

覇権主義とのたたかい

戦後の旧連連などによる覇権主義とのたたかいはどうでしょう。1950年、ソ連のスターリンらによって武装闘争を日本共産党に押し付けようという干渉が行われ、党中央の一部が内通・呼応して、中央委員会が解体されました。日本共産党は、この史上最大の危機を乗り越える過程で、自らの国の革命運動の進路は自らの頭で決める、どんな大国でも干渉や覇権は許さないという自主独立の路線を確立しました。

年表で見る「しんぶん赤旗」	
1922・7・15	日本共産党創立
28・2・1	党中央機関紙「赤旗(せつき)」創刊
35・2・20	弾圧により第187号を最後に停刊
45・10・20	再刊第1号
47・3・1	あかつき印刷が発足
7・16	題字を「アカハタ」に変更
50・7・18	GHQが「アカハタ」無期限発行停止を指令
52・5・1	「アカハタ」復刊第1号
59・3・1	「アカハタ」日曜版創刊
61・6・1	日刊にテレビ欄を新設
65・1・1	報道記事に「です・ます」記述を採用
66・2・1	題字を「赤旗」に変更
68・10・31	日刊紙にスポーツ欄、地方版(東京、関西)新設
69・10・15	「赤旗」将棋・第1期新人王戦が始まる
73・9・1	日刊紙16ページ建て実施
75・7	「赤旗」囲碁・第1期新人王戦が始まる
97・4・1	題字を「しんぶん赤旗」に変更。日曜版のタブロイド化
2000・5・1	日刊紙を一部カラー化
18・2・1	創刊90周年

「赤旗」創刊号(1928年2月1日付)の表紙(写真右)と日本共産党作家の小林多喜二(1933年2月28日付)(写真左)の創刊号を写す。



戦前のたたかいは、決断は、日本共産党は、非合法下の追書や投獄に屈することなく、国民主権と反戦平和の旗、さらに人間解放と未来社会をめざす旗を掲げ続けた。戦前の社会でこの旗を掲げることが、文字通り、命がけのことであり、多くの諸先輩が弾圧をうけた。真実を伝え続けたので紹介しています。



(写真右から) ソ連共産党中央委員会(1964年4月18日付)の書簡にたいする日本共産党中央委員会の返書(「アカハタ」1964年9月2日付)、ソ連共産党の解体に対して出された日本共産党常任幹部会長の声明を掲載した「赤旗」1991年9月2日付、日中両党の関係正常化を報じる「赤旗」1998年6月12日付

「オール与党」体制とのたたかい



「オール沖縄」候補の4選挙区完勝を報じる2014年12月15日付

「日本共産党を除く」という「オール与党」体制とのたたかいはどうか。この一大契機となったのは、日本共産党排除を原則として明記した、1980年の社会党と公明党との政権合意(社会党)でした。支配勢力が総力をあげ、日本共産党を政界から排除し、その存在をないものかのように扱う、大掛かりな反共作戦が始まったのです。1990年代前半には「自民か、非自民か」という共産党めだしの一大キャンペーンが、その後小選挙区制をテコに「二大政党」づくりが行われ、2000年代には、財界主導の「二大政党」による政権選択の一大キャンペーンが繰り広げられました。

この間、「赤旗」は、「オール与党」体制の反国民的、反民主主義的な実態を具体的に告発しつづき、無党派を含む幅広い人々とともに一致して、共産党を除く「壁」を打破するために全力をあげました。



公明党の言論・出版事件をスクープした1969年12月17日付「赤旗」(写真上)と「言論・出版の自由」大集会を報じる1970年2月4日付(同上)と、八鹿高次郎事件の第一報(1974年11月23日付)1面1回下と暴力・無法一掃の八鹿町での大集会を報じた1974年12月2日付(同上左)、田中角栄の信濃川河川敷い占め事件を報じた1966年10月23日付の日曜版3面(同上右)

タブーを打破 世論動かす

どんな弾圧、迫害にも負けずに、真実を追求し、報道する一戦前、戦後のたたかいはなかで培われた「赤旗」の不屈のジャーナリズム精神は、さまざまなタブーに風穴をあけ、世論をうごかしてきました。

日本と世界の「大変動」への確信がわく一冊

新しい時代開く 党の力つける年に

■目次
新しい時代ひらく党の力つける年に
2018年党旗びらき 志位和夫委員長のあいさつ

〔新春痛快対談〕 浜 矩子さん・志位和夫さん
市民が社会動かす時代

〔新春対談〕 石川康宏さん・志位和夫さん
市民と野党の共闘は日本社会にしっかりと市民権を得た
世界でも日本でも、逆流を乗り越え、新しい時代を開く大変動が起こった

発売中

A5判ブックレット 80ページ
定価400円(税込)
送料82円

逆流をのりこえ、市民と野党の共闘への新たな発展をかちとった総選挙。国内外の情勢を語り、2018年のたたかいを展望、党の政治的役割にふさわしく自力をつけることを訴えた党旗びらきあいさつに加え、安倍政権への歯に衣着せぬ批評が評判の浜矩子さん、マルクス研究の経済学者石川康宏さんとの、痛快で明晰な二つの対談を収録。

日本共産党中央委員会出版局

〒151-8586東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-7 TEL03-3470-9636 fax03-3470-1505 http://www.jcp.or.jp Eメールbook@jcp.or.jp

直送ご希望の場合は郵便、電話、ファックス、Eメールなどで直接ご連絡ください。代金と送料は商品に同封する振込用紙で郵便局からお振込みいただけます。

紙面にみる「赤旗」の90年

「赤旗」のいま どこまで来ているのか

創刊から90年を迎える「赤旗」。いま、この新聞はどのような地位にあり、この日本社会のなかでどんな役割を果たしているのでしょうか。

「赤旗」それは、日本の問題でも世界の問題でも、世の中の本当の姿、真実を知ろうと思えば不可欠の存在、なくてはならない新聞です。

9条改憲問題

たまたま、安倍首相がねらう9条改憲問題。昨年の憲法記念日に打ち上げたのですが、これもこのシナリオを描いたのは、改憲右翼団体

「日本会議」のブレンである。その狙いは、「自衛隊を明記した3項を加えて2項を空文化させること」にある。このことを、彼らの発言から洗い出せば、「9条2項を空文化」日本会議の「あけすけ」と、いささか暴露したのが、「赤旗」です。海外での武力行使が文字通り無制限になるというのが、この問題の本質です。そのことを国民多数の共通認識にしていこうと、「赤旗」の役割は決定的です。

沖縄新基地問題

9条改憲問題と並んで、こ



安倍首相が狙う9条改憲の狙いや背景を暴露した2017年5月14日付2面(写真上右)と3面(同左)。「9条改憲ノー」の国会包囲行動を報じる同11月4日付1面

9条改憲・新基地・核兵器…真実に迫る

と絶対に負けられないたたかいとなっている。沖縄の新基地建設問題、「赤旗」は、新基地建設に反対する唯一の全国紙として、安倍政権がいかに民意も法も無視して新基地建設を強行しようとしているのか、その道理のなさをともに、立ち向かう沖縄の人々のために、全国紙として、この問題について、いちばん詳しく報道しています。

沖縄全域で相次ぐ米軍機事故は、普天間基地は市街地の真ん中にあるから危険だ。海辺の辺野浦に移せば安全だ。という、新基地建設の合理性論が、まったくの偽りであることを浮き彫りにしました。

大企業の不正

昨年は、大企業の不正事件や車事故、談合や税逃れなどさまざまな事件が相次ぎましたが、この問題でなんの遠慮もなく、大企業の名を出して不正を追及できるのは「赤旗」です。

昨年12月27日付1面は大企業の不正を告発するスクープが紙面を飾りました。一つは、トップのアップル税逃れ1.2兆円。日本でも得た利益過去10年、租税回避地に移転、もう一つは「そのま台車電器のJ.R.西。検査要員20人、今年4月削減」の記事。他のメディアにはできないスクープならぬスクープです。世界的な多国籍大企業であるアップルの税逃れの追及には、「さすがに赤旗」なまでの記者を派遣響かされました。

核兵器禁止条約

昨年は、核兵器を歴史上初めて違法化する核兵器禁止条約が採択されたというビッグニュースがありました。赤旗は、国連会議はもう、核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)のノーベル平和賞授賞式からパチパチにまで初めて記者を派遣



アップル税逃れ1.2兆円「台車電器のJ.R.西。検査要員20人、今年4月削減」と大企業不正を告発した2017年12月27日付1面。大企業の不正や車事故を暴露して告発した経産省の連発「アップル税逃れ」(同月16日付、6月16日付)と「日本の果て」(同月16日付)

一般メディアも注目の存在感

ジャーナリズムの使命は、権力を監視し、真実を報道することです。ところが、日本の巨大メディアは、「国境なき記者団」による報道の自由度ランキングの深刻な低下に見られるように、全体としてその使命を果たしていません。

昨年5月には「週刊ポスト」が「聖教新聞」とセットで6ヶ月の特集を組みましたが、そこで注目したのが、「赤旗」の「一般の報道機関にはない視点や角度」です。その目録は、「赤旗」の「一般の報道機関にはない視点や角度」です。その目録は、「赤旗」の「一般の報道機関にはない視点や角度」です。

権柄の白紙領収書疑惑など今昔のスクープを振り返っています。

日経新聞が昨年7月21日付夕刊で「党勢急落の関与」と題した政治権力の特集を掲載しましたが、これも「赤旗」の「一般の報道機関にはない視点や角度」です。その目録は、「赤旗」の「一般の報道機関にはない視点や角度」です。

市民と野党の共闘の前進に大きな役割



(写真上から時計回りに) 17万人が集まった原発ゼロの集会(2017年7月7日付)、原発ゼロ官邸前行動1年(2017年3月30日付)、戦争法案「全国大行動」(2017年8月31日付)、秘密保護法強行に抗議(2013年12月10日付)を伝える「しんぶん赤旗」



談話シリーズ「総選挙結果うけて」(2017年10月25日付1面)



国政での選挙協力で合意した5野党党首会談を伝える2016年2月20日付1面

「しんぶん赤旗」はいま、市民と野党の共闘を進める共同の新聞として大きな役割を果たしています。

俳優の仲代達矢さんが「赤旗」創刊90周年に寄ったメッセージで次のように語っています。

「近年の『野党』と市民との共闘の選択は、非常に心強いものがあります。立場の違いを超えて、一歩でも半歩でもよい良い社会へと向かう道を選びたいと、心から敬服いたします。その『共闘』の下の地をつけたのは、『赤旗』紙上での幅広い人との交流ではなく、仲代さんが語るように、『赤旗』は、市民と野党の共闘が前進する中で、保守の人々をふくめ、これまでにない幅

「しんぶん赤旗」はいま、市民と野党の共闘を進める共同の新聞として大きな役割を果たしています。

俳優の仲代達矢さんが「赤旗」創刊90周年に寄ったメッセージで次のように語っています。

「近年の『野党』と市民との共闘の選択は、非常に心強いものがあります。立場の違いを超えて、一歩でも半歩でもよい良い社会へと向かう道を選びたいと、心から敬服いたします。その『共闘』の下の地をつけたのは、『赤旗』紙上での幅広い人との交流ではなく、仲代さんが語るように、『赤旗』は、市民と野党の共闘が前進する中で、保守の人々をふくめ、これまでにない幅

必ず止める。
だから広げる。

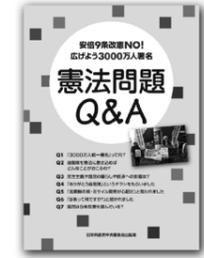


3000万人署名に取り組み兵庫県の「東園田の会」(2017年12月)

自民党は、憲法改定の発議を今年の国会でねらっています。「安倍改憲を許すな」と、全国で「3000万人署名」の運動が広がっています。各地の対話で出ている声や質問と結んで、Q&Aにまとめた100円パンフです。

安倍9条改憲NO! 広げよう3000万人署名 憲法問題 Q&A

- Q1 「3000万人統一署名」って何?
- Q2 自衛隊を憲法に書き込めばどんなことがおこるの?
- Q3 民主主義や国民の暮らしや経済への影響は?
- Q4 「ありがとう自衛隊」というチラシをもらいました
- Q5 「北朝鮮の核・ミサイル開発が心配だ」と言われました
- Q6 「9条って何ですか?」と聞かれました
- Q7 国民は9条改憲を望んでいる?



- 「とても分かりやすい」
- 「質問にも答えられる」
- 「行動に出やすくなる」

と好評の「しんぶん赤旗」日刊紙(1月25日付)の特集をまとめたものです。

発売中 A5判16ページ 定価100円(税込) 20冊までは送料82円



自力と地力をもたらず紙面

岡山大学大学院教授 小松 泰信さん

「しんぶん赤旗」(2017年4月26日放送)で「赤旗とります宣言」をして、28日から購読を開始しました。1年にも満たない新参者として、前年90年の発行史に対して、ただただ敬意を表するのみです。

農業協同組合新聞電子版の「コラム」地方の眼力を執筆するために、一般紙と併読しています。それからは伝わってこない、政治や経済に関する細かい分析は刺激的です。また、弱者へのまなざしも他紙の追随を許しません。



被爆者への励ましに感謝

日本被団協事務局長 木戸 季市さん

表現の自由をはじめ、基本的人権がまったく認められていなかった90年前の暗黒時代に創刊され、多くの試練に耐えて今日まで発行されたことに心から敬意を表します。

「赤旗」は事実をきちんと言え、真実を明らかにしてきました。戦後の歴史の中でも画期的な出来事として報道した「赤旗」が、より多くの人に読まれることを願ってやみません。



私たちが「赤旗」も変わった

総がかり行動実行委共同代表 福山 真劫さん

はつきり言って、これまで「赤旗」には、私とち平和フォーラムの組織と運動などは、無視されてきたと思います。私たちが「赤旗」に報道してもらおうと、道しるべとして、報道の機関紙であり、共産党およびそれを支持する団体とは対抗する「3000万人署名」も事実を報道してくれています。全国的な運動の状況がよくわかり、私の毎朝の必読新聞に「赤旗」も加わりました。



とにかく面白くてためになる

弁護士 角田 由紀子さん

「しんぶん赤旗」は、とにかく面白くてためになる。なんだか戦前の講談社の絵本の宣伝文句のようだが、私の「しんぶん赤旗」への評価を語るのにはぴったり。毎朝、配達されるのをなんども確認し、郵便受けのぞきにゆく。出かける前に全部を読む。結構開からずまで読む。

Q.「3000万人統一署名」って？

A 安倍政権による憲法9条の改憲を許すなど、宗教家の有馬頼底さん、作家の瀬戸内寂聴さん、ノーベル賞受賞者の益川敏英さんなど幅広い19氏が発起人となり「安倍9条改憲NO!全国市民アクション」を立ち上げ、「全国統一署名」をよびかけました。今年5月を境に300万人の署名を集めることが目標です。

内閣総理大臣 様
衆議院議長 様
参議院議長 様

安倍9条改憲NO! 憲法を生かす全国統一署名

2017年5月3日、安倍晋三首相は突然、「新たに憲法9条に自衛隊の存在を書きこむ」「2020年に新憲法施行をめざす」と述べました。この発言を受けて、改憲への動きが急速に強まっています。

戦後70年以上にわたって、日本が海外で戦争をしてこなかった大きな力は憲法9条の存在と市民の粘り強い運動でした。いま、9条を変えたり、新たな文言を付け加えたりする必要は全くありません。私たちは、日本がふたたび海外で「戦争する国」になるのはコメントです。

私たちは、安倍首相らによる憲法9条などの改憲に反対し、日本国憲法の民主主義、基本的人権の尊重、平和主義の諸原則が生かされる政治を求めます。

請願事項

- 1、憲法第9条を変えないでください。
- 2、憲法の平和・人権・民主主義が生かされる政治を実現してください。

氏名	住所

※いただいた署名は、国会請願と首相への要請以外には使いません。

第一次集約 2017年12月20日 第二次集約 2018年4月25日 第三次集約 2018年5月末

呼びかけ団体 **安倍9条改憲NO! 全国市民アクション**

〒101-0064 東京都千代田区錦糸町1-2-3 錦華堂ビル401 TEL: 03-5280-7157
ホームページ: <http://kaikenna.com> メールアドレス: info@kaikenna.com

家族みんなで読める日曜版



政治・社会分かりやすく

暮らしのお得情報が満載

各界の著名人が続々登場

「しんぶん赤旗」をお読みください

- 日刊紙 月3497円 1部130円 16ページ
- 日曜版 月 823円 1部210円 タブロイド判36ページ

お申し込みは、お近くの党事務所、役員、または党中央委員会へ
・党中央委員会 ☎03 (3403)6111 メールアドレス info@jcp.or.jp



JCPサポーター登録受け付け中

日本共産党と国民がネット・SNSで日常的に結びつき、力をあわせて選挙をたたかう—こんなことをめざす「JCPサポーター」の登録を受け付けています。
登録は、「JCPサポーター」のホームページ (<https://www.jcp.or.jp/supporter/>) から